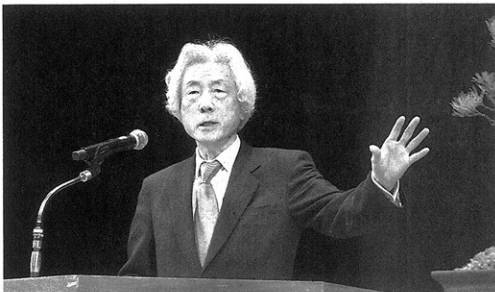


「原発事故 国なくなる危険」

小泉元首相 松江で講演



熱弁をふるう小泉純一郎氏＝松江市殿町

「原発ゼロ」を訴える小泉純一郎元首相(77)が16日、松江市殿町の県民会館で講演した。原発のリスクと再生可能エネルギーの可能性などを約1時間半にわたって熱弁。「政党は関係ない。右も左もない。近々、全政党が原発をやめようという時代が来ると思っている」と訴えた。

市民団体「島根原発・エネルギー問題県民連絡会」(事務局長・保母武彦島根大名誉教授)などてつくる実行委が主催。主会場の大ホール(約1700人)は満員になり、別会場ともライブ中継をつないだ。同団体によると、来場者は約2100人という。

首相時代に原発推進の立場だった小泉氏は、福島第一原発事故を機に考えが変わったと説明。「あなたはぶれない総理だと言われたが、ぶれた。でもいい方向にならないじゃない」と笑いも誘った。

小泉氏は、福島の原発事故では最悪の場合、東京まで含んだ、原発から半径250キロ圏内の人が避難しなければならなかったと話し、「原発は単なる事故に終わらず、国がなくなるような危険性を持っている」と指摘。事故後に全国の原発が停止したまま生活できたとことや、太陽光発電などの再生可能エネルギーの供給量の増加を挙げ、「原発に頼らず、新エネルギーでやっていく。そうなることを期待しながらあきらめずやっていく」と話した。

雲南市大東町から友人2人と来た小山賢子さん(83)は「(小泉さんは)首相時代と、がらっと考えが変わったことが分かった。話はとても分かりやすく、自分たちも何かできる気がした」と話した。(市野塊)